



# BPMN2.0の作図 チュートリアル

(2022/02/16 最終更新)



SparxSystems Japan Co., Ltd.

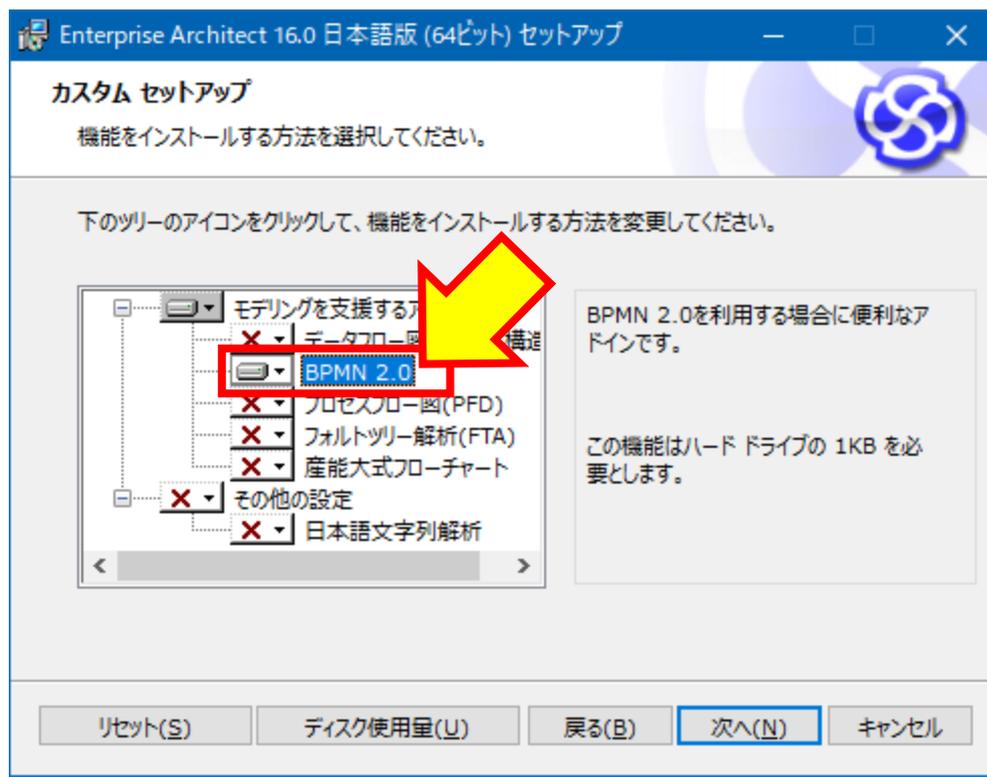
# はじめに

- このスライドでは、BPMN2.0のモデルを作成する方を対象に例題を通して基本的な描き方を説明します。
  - 利用するEnterprise Architectのバージョン・ビルドにより画面・機能が多少異なります。
- Enterprise Architectの基本的な操作方法(ダイアグラムの作成やクイックリンクなど)についての説明はありません。事前に以下のページからダウンロードできるPDFファイルの内容を実際に試してください。  
(UMLでもBPMNでも基本操作は変わりません)

[https://www.sparxsystems.jp/products/EA/ea\\_zero.htm](https://www.sparxsystems.jp/products/EA/ea_zero.htm)

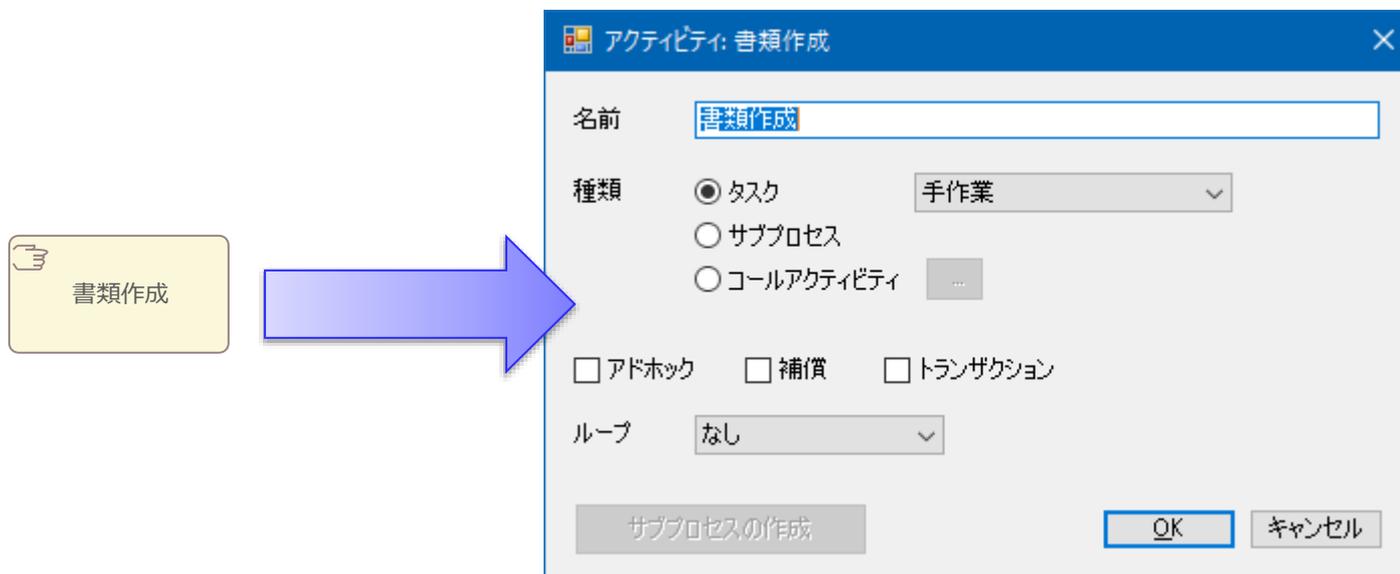
# BPMNアドイン

BPMNの作図時に便利なアドインを  
Enterprise Architectのインストール時に  
選択してください。

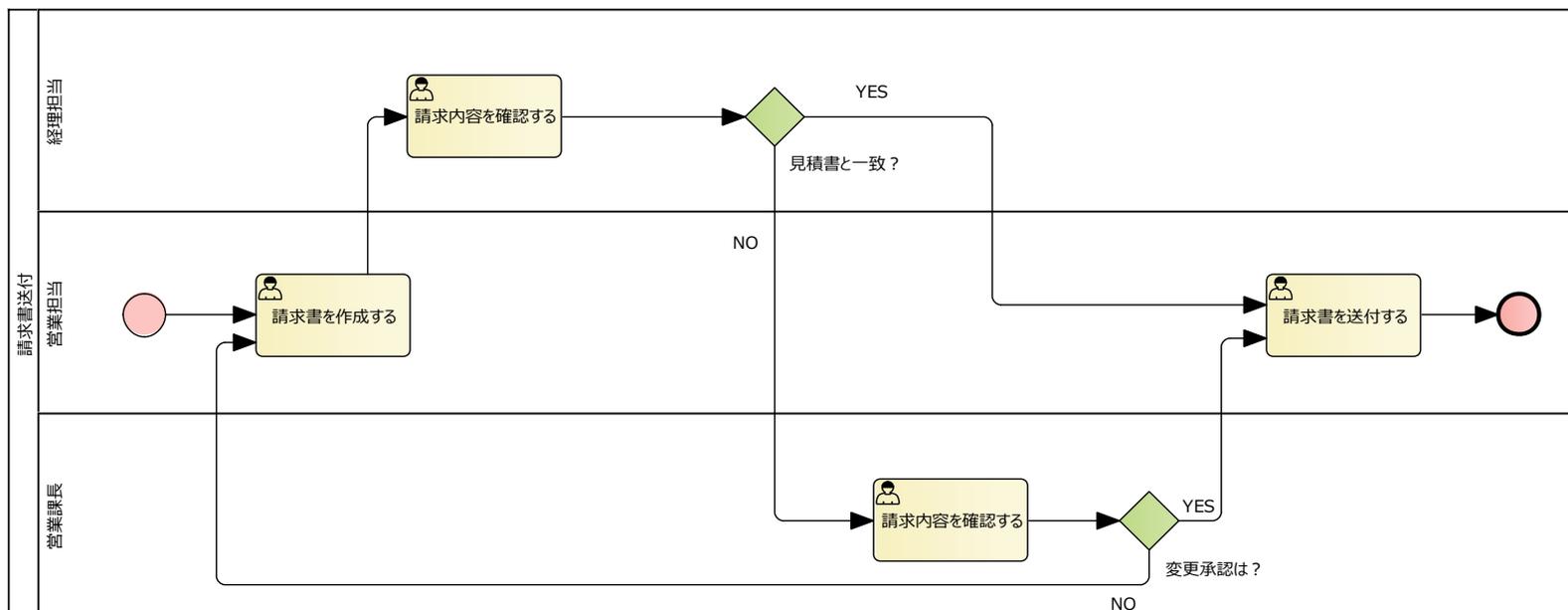


# BPMNアドイン

BPMNアドインが有効になっていると、図内の要素をダブルクリックすると、よく使われるプロパティを便利に編集できる画面が表示されます。



# 手順に沿って BPMN図を記載します



今回の内容は、書籍「業務改革、見える化のための業務フローの描き方」の88ページの図を利用させていただきました。

# パースペクティブの設定

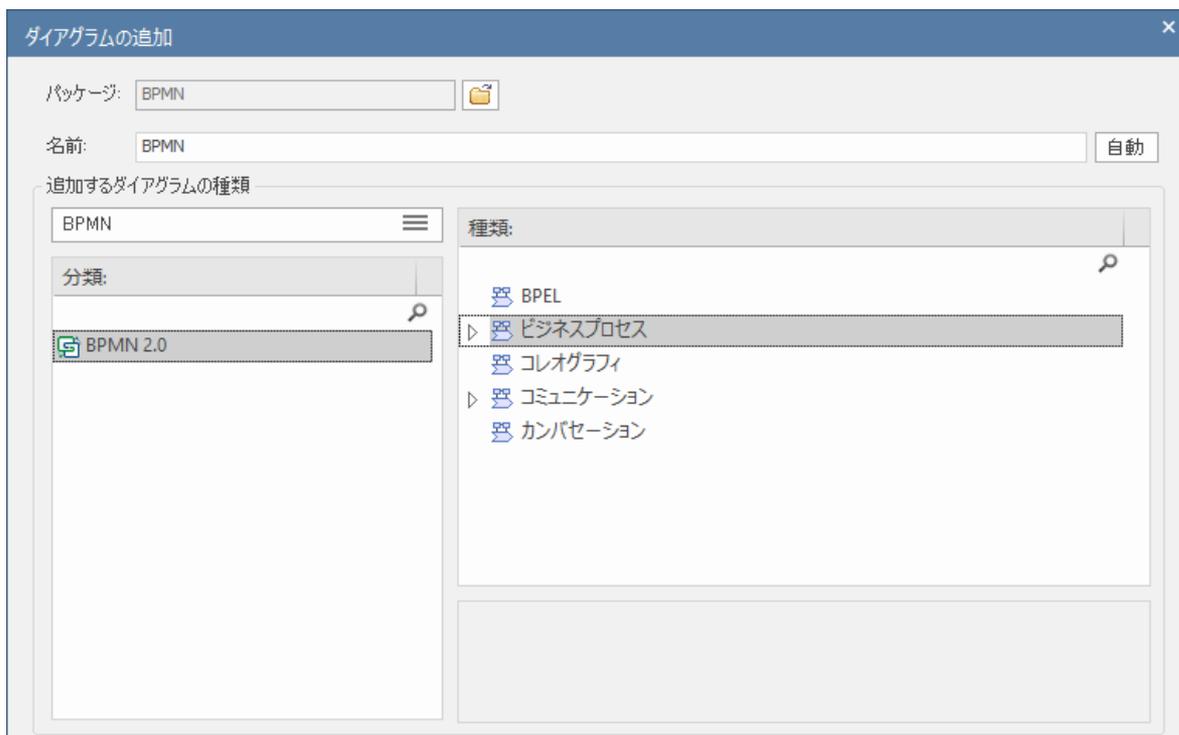
Enterprise Architectの画面右上の  
「パースペクティブ」ボタンを押し、「ビジネスモデリング」  
→「BPMN」を選択します。

- 「モデルテンプレートの利用」タブが開きますが  
この内容では利用しませんので、閉じてください。

# 図の作成

パッケージ「BPMN」を作成し、そのパッケージ内に BPMN2.0の「ビジネスプロセス」図を作成します。

➤ 図の名前を「請求書送付」とします

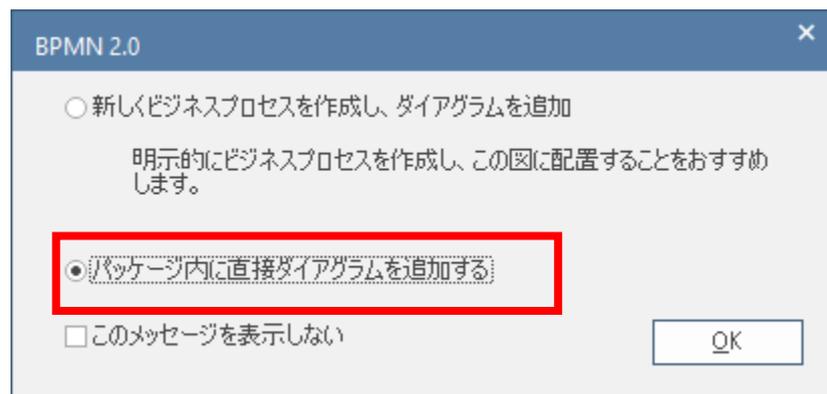


# 図を作成する際のメッセージ

BPMN2.0の図を作成した直後には、以下のようなメッセージが表示されます。

- BPEL生成する場合には、上の選択肢が必須です
- それ以外の場合には、実際の利用上は大きな差はありません。

✓ 1パッケージ=1プロセス であれば、下の選択肢をお勧めします。今回は下の選択肢を選びます。



# プールの配置

ツールボックスから「プール」を配置します。

- ダブルクリックすると表示されるプロパティ画面やプロパティサブウィンドウ・ショートカットキー(F2)を利用し、名前を「請求書送付」とします。
- 高さを広げ、レーンを配置できるようにします。



# 向き指定

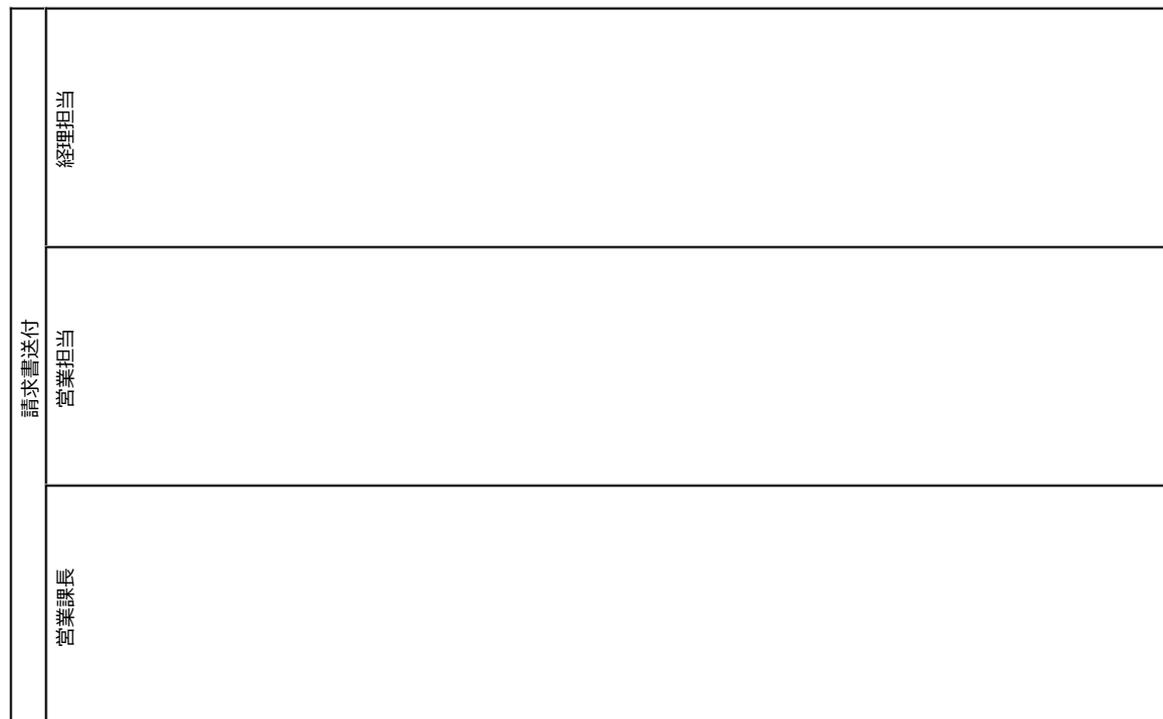
プール・レーンを操作しやすいように  
以下の操作で向きを指定します。

- 図の背景で右クリックし、「レーン・プールの向き」→  
「横方向」を実行  
(自動的に横位置・横幅を調整するようになります)

# レーンの配置

「レーン」を3つプールの中に配置し、名前を「経理担当」「営業担当」「営業課長」とします。

➤位置と高さを調整します。

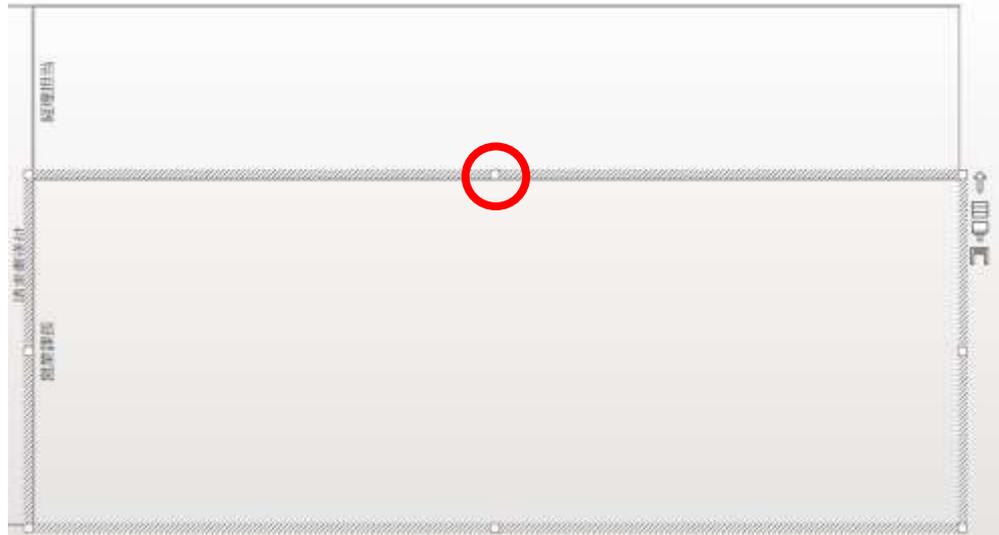


# レーンの配置のコツ

プール内にレーンを追加すると、レーンの大きさはプールの大きさに合わせて自動調整されます。

(2つめのレーンは自動でプールの残り部分に配置されます)

今回の例のように3つのレーンを配置する場合、2つめのレーンを追加した後に、追加したレーンの上部のハンドル(白四角)を下にドラッグすることで、レーンの間に空間を作成し、別のレーンを追加できます。



# プールとレーンの固定

プール・レーンを誤操作しないように  
以下の操作で固定させておくと便利です。

- Ctrl+Aで全てのプール・レーンを選択した状態で  
いずれかの要素を右クリックし「振る舞い」→  
「選択不可能にする」を選択
  - ✓再度右クリックし、「振る舞い」→「選択可能」に  
チェックを入れれば移動やサイズ変更が可能になる

# 開始イベントの配置

ツールボックスから「開始イベント」をドラッグし「営業担当」レーンにドロップします。

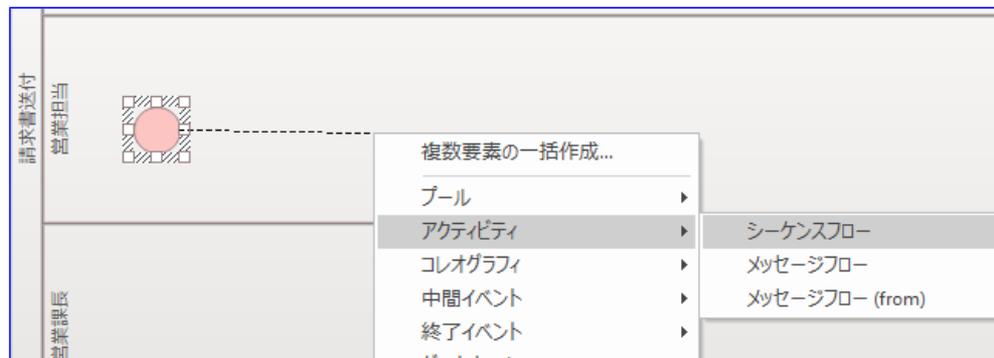
- 多くのBPMN要素では、ドロップ時に種類の選択肢が表示されますので作成したい種類を選択してください。(今回は「なし」を選択)
- F2キーやダブルクリックなどで名前を変更します。(今回は名前を削除する)



# アクティビティの作成(1)

開始イベントから、クイックリンク機能を利用してアクティビティを作成します。

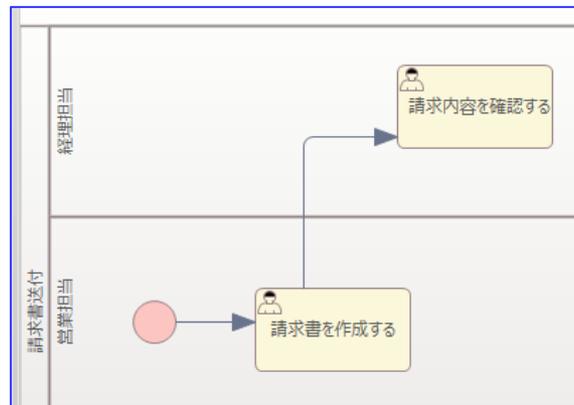
- シーケンスフローで接続します
- 作成直後に種類の選択肢が表示されますのでアクティビティの種類として「ユーザー」を選択します
- 名前を「請求書を作成する」に変更します



# アクティビティの作成(2)

同様に、アクティビティ「請求内容を確認する」をレーン「経理担当」に作成します。

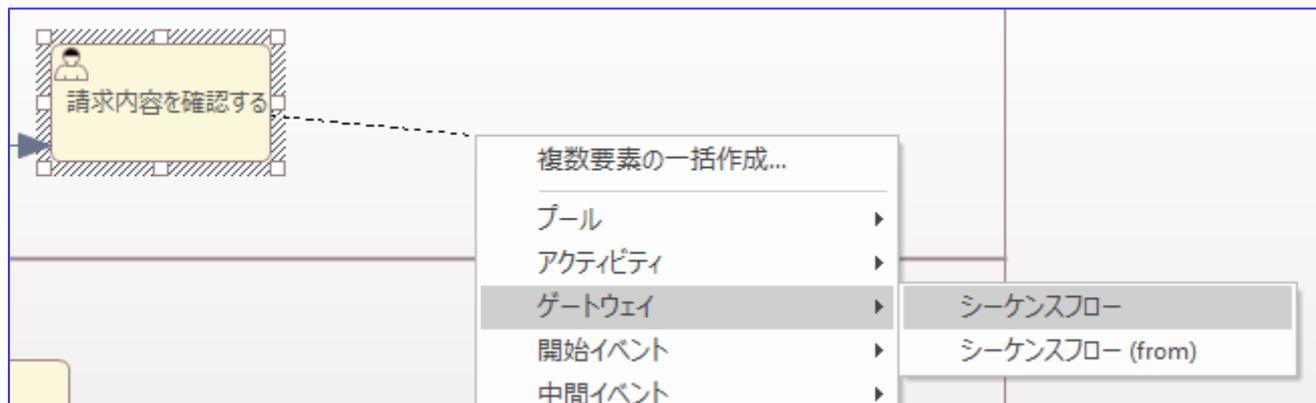
- 種類は「ユーザー」です  
(今後作成するアクティビティはすべて「ユーザー」です)
- 要素やフローの位置は、後で自動調整できますので希望するおおよその位置に配置します



# ゲートウェイの作成

さらに、ゲートウェイ「見積書と一致？」を作成します。

- 種類は「排他」を選択します



# レーンの幅を伸ばす

## アクティビティ「請求書を送付する」を作成します

- プール・レーンの幅が足りない場合、クイックリンクで範囲外にドロップすれば、自動的に幅が広がります。
- ゲートウェイは、上下左右の4カ所にフローがつながります。フローの作成直後の位置・形が変な場合にはフローをドラッグして形を整えてください。



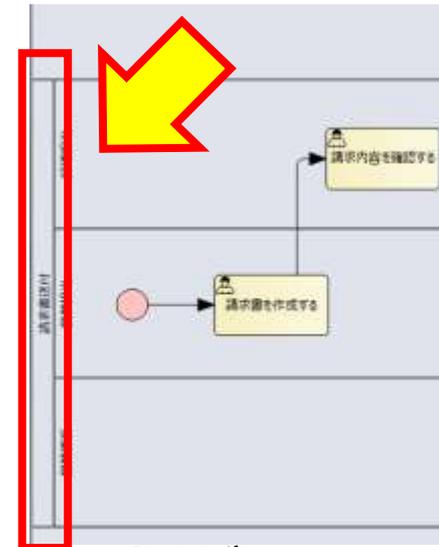
# プールの幅の調整

もし、プールの長さを伸ばしたい(縮めたい)場合には「選択可能」状態に戻す必要があります。

➤ プールの見出し部分を右クリックして「選択可能」を実行後、調整してください

- ✓ レーンの幅はプールの幅を変えると自動的に調整されます
- ✓ 作業が終わったら、同じ場所を右クリックして「振る舞い」→「選択可能」で元に戻します
- ✓ 要素をプール外に移動すれば、自動的にプールの幅が広がります

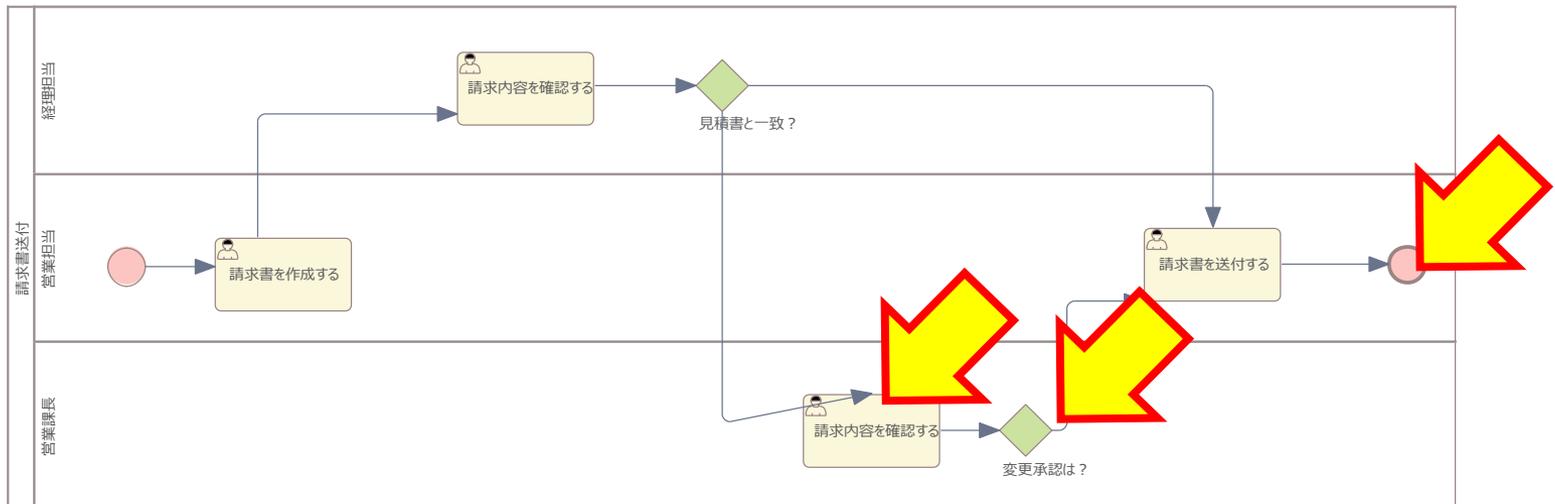
(移動できない場合には、ALTキーを押しながらドラッグしてください。)



# アクティビティの作成(3)

同じ操作で、以下の「請求内容を確認する」  
「変更承認は？」と、終了イベントを作成します。

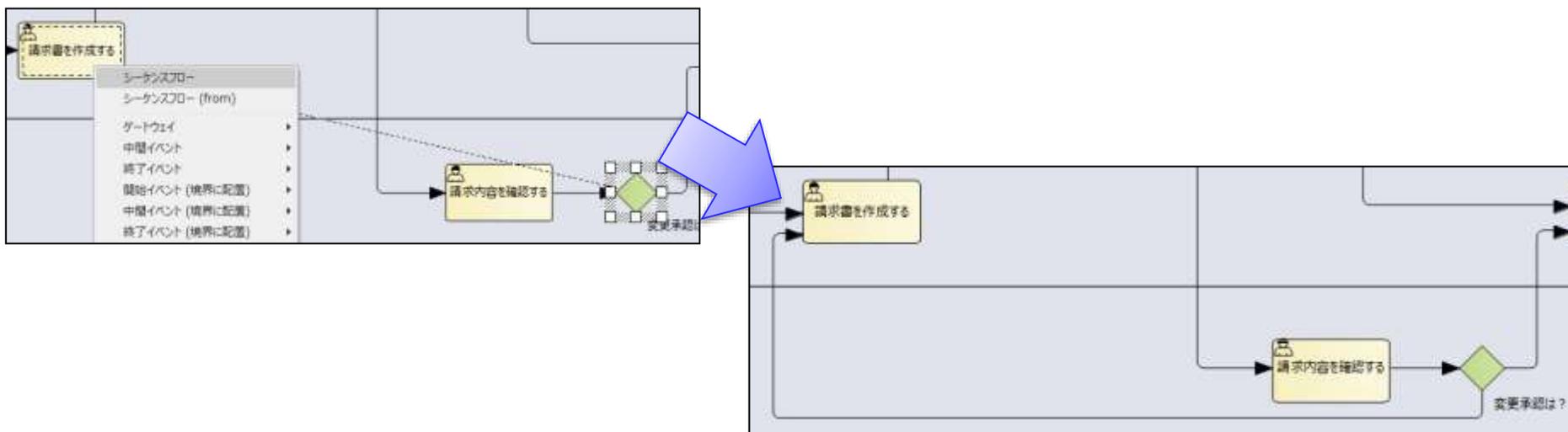
- 終了イベントの種類は「なし」です。
- 下の図のように、フローや要素の位置が乱れても自動調整できますので、現時点では気にしなくて構いません。



# 戻る方向のフローについての補足

「変更承認は？」から出るNoのフローも  
クイックリンクで作成できます。

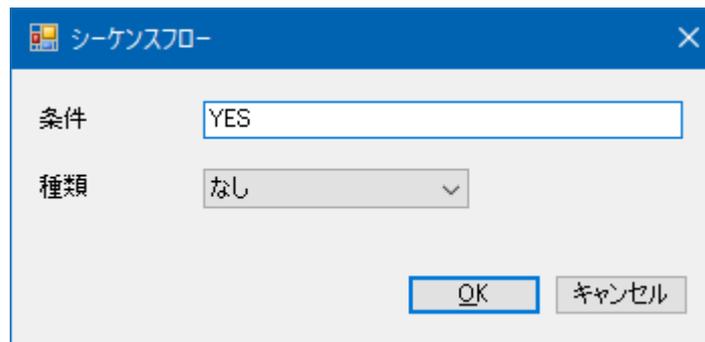
- 戻る向きフローの場合には、フローをドラッグして  
形の調整が必要です
- ドラッグする位置に応じて調整できる範囲が変わります



# シーケンスフローの条件

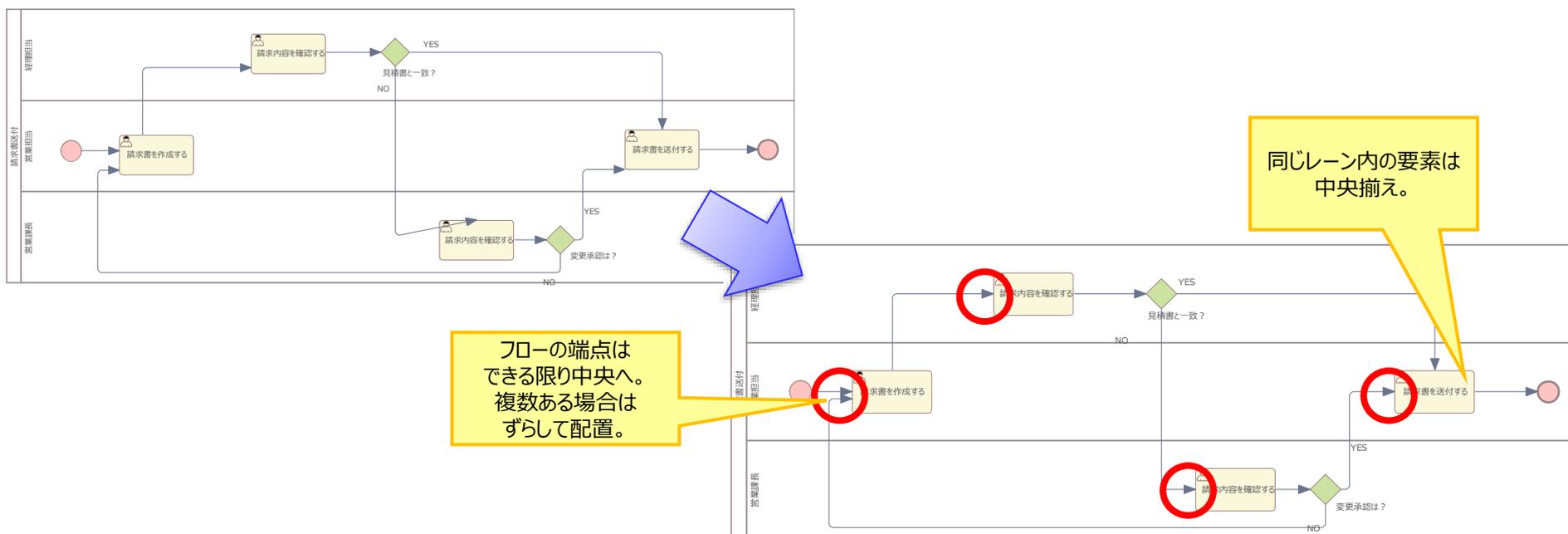
シーケンスフローの条件は、フローをダブルクリックして表示されるダイアログで設定できます。

- 常にフローの先端付近に配置されますのでドラッグして適切な位置に移動してください



# 自動調整

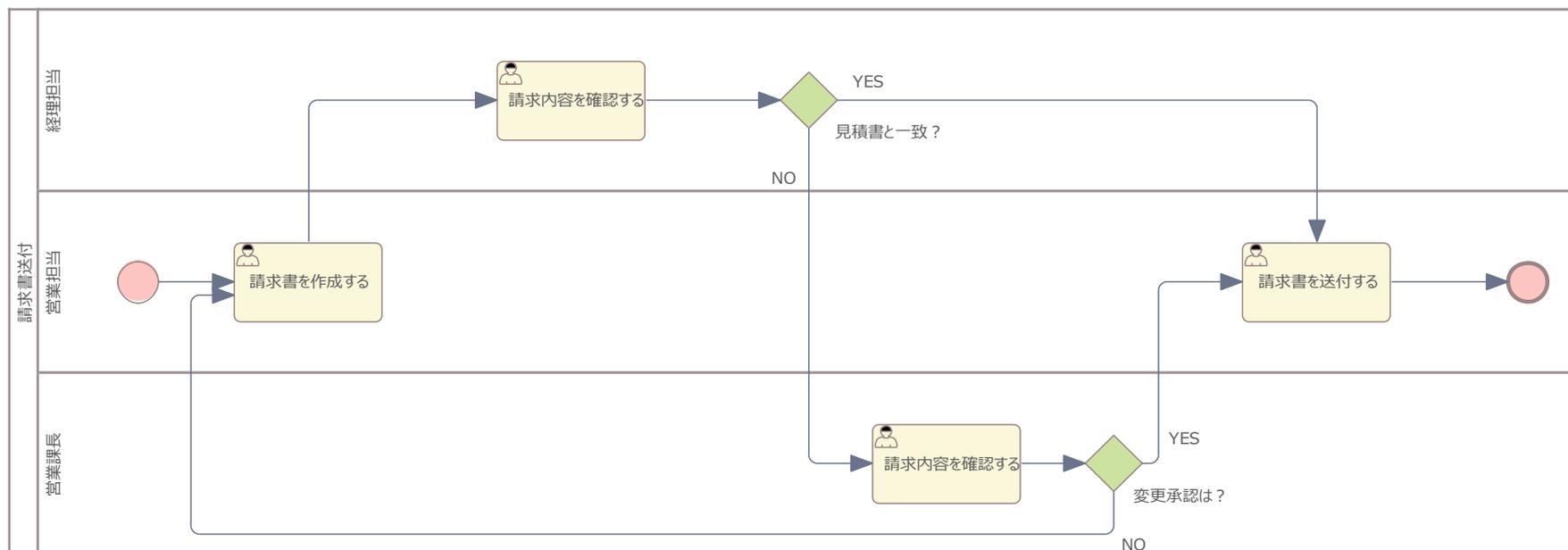
ダイアグラムの背景で右クリックし、「アドイン・拡張」→「BPMN」→「レイアウトの調整」を実行すると要素やフローの位置を自動調整します。



# 完成

これで完成です!

(書籍「業務改革、見える化のための業務フローの描き方」はとてもわかりやすくおすすめの書籍です。この図に関連する内容については、書籍をご覧ください。)



# 最後に

BPMNの作図にEnterprise Architectを利用する最大のメリットについてはこのチュートリアル範囲には含まれていません。

下記URLの「動画デモ」のページにある「BPMN 2.0のモデリング」を**必ず**ご覧ください。

[https://www.sparxsystems.jp/products/EA/ea\\_demo.htm](https://www.sparxsystems.jp/products/EA/ea_demo.htm)

# 要素の名前の改行位置

要素の名前は、原則として要素の幅に応じて自動的に改行されます。

- 要素の幅を調整することで、改行位置を変えることができます。
- 要素のフォントを変えることでも、改行位置を変えることができます。  
(「ダイアグラム」リボンの「書式」パネルにある「A」アイコン)

# サブプロセス

あるアクティビティの詳細を記載したい場合には、アクティビティのプロパティ画面で、「サブプロセス」を選択し、「サブプロセスの作成」ボタンを押します。

- 要素の「目玉」アイコンで参照できます。  
(アイコンの位置はバージョンにより左上に表示されます)

